

第4学年 体育科学習指導案

平成24年10月4日（木）第5校時
江戸川区立大杉第二小学校 校庭
○ 年 ○ 組 計 ○ ○ 名
授 業 者 ○ ○ ○ ○

研究主題

「進んで運動に取り組む児童の育成」

中学年分科会の目指す児童像

「基本的な動きを身に付け、最後まで運動に取り組む子」

- 1 単元名 ゲーム 「ハンドボール」（ゴール型ゲーム）
- 2 単元の目標

【技能】 ○ 投げる、受けるといったボールを操作したり、ボールを受けることができる場所に素早く移動したりして、ゲームを行うことができる。

【態度】 ○ 友達と励まし合って練習やゲームをしたり、ゲームの勝敗の結果を受け入れたりして、楽しんでゲームを行うことができる。

【思考・判断】 ○ ゲームの行い方を知り、ゲームのルールを工夫したり、チームで簡単な作戦を立てたりすることができる。

3 評価規準

観点	(1) 技能	(2) 態度	(3) 思考・判断
単元の評価規準	① 易しいゲームにおいて、投げる・受けるといった基本的なボール操作ができる。 ② ボールをもたない動きとして、ボールを受けることができる場所に素早く移動したり、パスをもらったりすることができる。	① 友達の良いところを声掛けしたり励まし合ったりしながら楽しく練習やゲームをすることができる。 ② ゲームの勝敗を受け入れ、礼儀正しい態度でゲームを行うことができる。	① ハンドボールのゲームの行い方を知るとともに、易しいゲームを行うためのルールを考えることができる。 ② 易しいゲームの特徴に合った攻め方を知るとともに、簡単な作戦を立てることができる。

4 指導観

(1) 単元について

本単元は、新学習指導要領第3・4学年のゲーム領域の「ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作やボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすること。」という内容に沿

って設定したものである。

ハンドボールはゴール型ゲームのうち、手を使ったゴール型のゲームとして取り上げられている。パスやドリブルなどでボールを運び、シュートして相手チームと得点を競い合う運動であり、ゴール型のゲームの中でもシュートの機会がとて多いのがこの運動の魅力でもある。また、攻守の入れ替わりがとて激しく運動量がとて多いのが特徴的で、持久力の向上を図ることができる。

ハンドボールはポートボールやバスケットボールと似ているルールが多く、それらの運動に比べてゴールがとて広く、どの子でも進んでシュートをしようとする姿勢が見られ、楽しんで取り組める運動であると考えられる。

また、学習では、柔らかいボールを使用することで、ボールへの恐怖心を軽減し、ボールを操作することへの意欲にもつながるのではないかと考えられる。

ボールを扱う技能やゲームを通してお互いを励まし合いながら学習していくことを通し、協力してプレーする楽しさや最後まで諦めないで全力でプレーする姿勢を養っていききたいという思いで本単元を設定した。

(2) 児童の実態

(ア) 新体力テストの結果から

事前のアンケートから、本学級の児童（男子18名、女子17名、計35名）は体育の学習に大いに意欲や関心をもっており、体育の時間を楽しみにしている児童がとて多い。中でも、ボールを使った運動への興味・関心が高いことがわかる。

しかし、今年度の新体力テストの結果の分析は、以下のとおりである。

（新体力テストを受けた児童は32名（男子16名、女子16名）である。本学級の児童の記録と、全国平均の偏差値を50とした時の値から分類した。「大幅に」という表記の箇所では偏差値が10ポイント以上の開きがあるものをカウントした。）

	全国平均より大幅に低い	全国平均よりやや低い	全国平均よりやや高い	全国平均より大幅に高い
握力	男子…7名 女子…11名	男子…6名 女子…4名	男子…3名 女子…1名	男子…0名 女子…0名
20mシャトルラン	男子…7名 女子…0名	男子…4名 女子…5名	男子…3名 女子…9名	男子…2名 女子…2名
ボール投げ	男子…6名 女子…4名	男子…6名 女子…7名	男子…4名 女子…2名	男子…0名 女子…3名

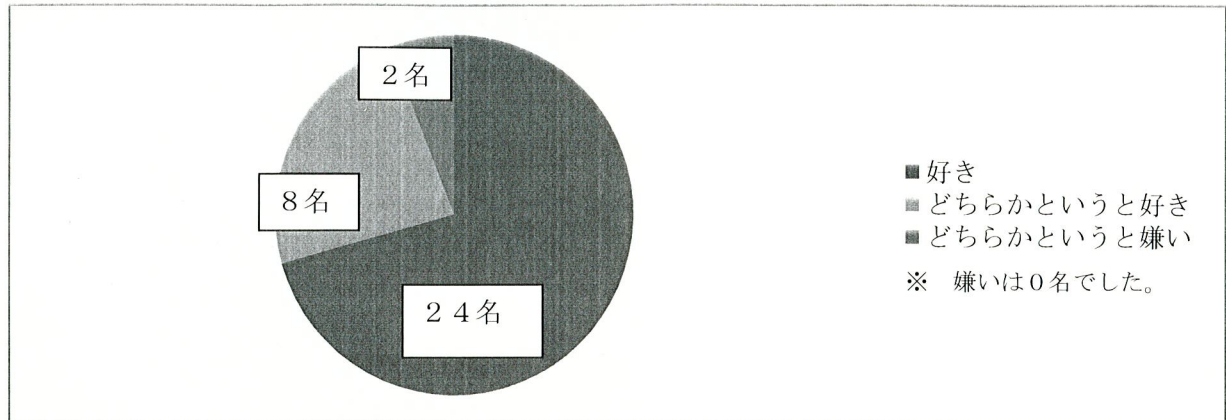
《考察》

特にこの三種目が全国的に比べて劣っている項目であった。

ハンドボールは、片手でボールを握って操作することで握力の向上を目指すことができる。攻守の素早い展開では、全身の持久力を高め、ロングパスやシュート練習を重ねることでボール投げの力を向上させることもできる運動である。本学級の児童の実態に合った運動であるということがうかがえた。

(イ) 学習に関するアンケートの結果から

1 体育の学習でボールを使った運動は好きですか？



好き・どちらかというとき好きの主な理由

- ・ ボールを使う運動の方が楽しい。
- ・ パスやシュートなどができると楽しい。
- ・ みんなでやると仲良くなれるから。
- ・ 走るのが苦手でもボールがあると楽しい。

どちらかというとき嫌い・嫌いの主な理由

- ・ ボールを扱う技能に自信がないから。

2 ボールを使った運動で楽しいと感じる時はどんな時ですか。(複数回答可)

- ・ 自分が得点したとき (30名)
- ・ チームが勝った時 (28名)
- ・ 先生や友達にほめてもらった時 (20名)
- ・ ボールを操作するのがうまくなったと感じた時 (13名)
- ・ 作戦通りに動けた時 (10名)

3 ハンドボールではどのようなことが大切だとおもいますか。(複数回答可)

- ・ 声を掛け合っていいプレーをほめたり励ましたりしてゲームをすること (29名)
- ・ ボールを正確にとったり投げたりすること (24名)
- ・ フリーになってボールをもらうこと (22名)
- ・ 状況に応じてドリブル・シュート・パスをすること (22名)
- ・ 積極的にシュートを打つこと (21名)
- ・ 作戦を立ててゲームに臨むこと (17名)

4 ハンドボールではどんなチームにしていきたいですか？

- ・ 声を掛け合ってゲームができる、楽しい雰囲気ของทีม (21名)
- ・ パスやシュートが正確にできるチーム (8名)
- ・ 男子でも女子でも積極的にシュートを打てるチーム (4名)

5 ハンドボールの学習ではどのような練習をしていきたいですか？

- ・ パスやシュートの練習をたくさんしたい (27名)
- ・ ゲームをたくさんしたい (8名)

《考察》

ハンドボールだけでなくボールを使った運動では、『自分でシュートを決めたりチームが勝ったりすると楽しい。』という回答が多く見られた。誰でも積極的にシュートを打つ楽しさを味わえるように技能に応じたルールや得点方法の工夫を取り入れていく。また、ボールの操作を苦手とする児童のために、チーム (または少人数) で取り組めるチーム練習の時間を確保し、ボ

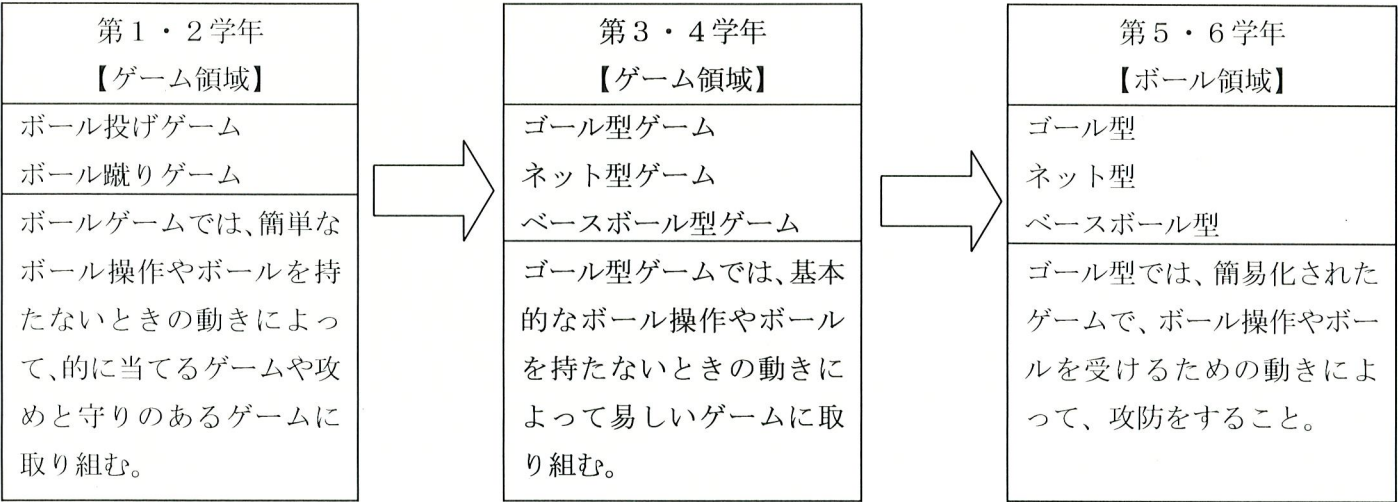
ールに触る機会を増やし、声を掛け合って苦手意識をなくしていく。ハンドボールの学習を通し、みんなで声を掛け合ってプレーし、最後まで運動をする楽しさを味わえるようにしていきたい。

(3) 教材について

＜ハンドボールの特性＞

- コート内で攻守が入り混じってゲームを行い、集団対集団で得点を競い合うことを楽しむ運動である。
- ボールをつないで運んだり、相手ゴールにボールを入れたりすることを楽しさを感じる運動である。
- ゲーム中に仲間と励まし合ったり、アドバイスし合ったりしてチームでかかわり合いながらプレーする楽しさを感じられる運動である。
- 攻守の切り替えが早いことから、状況を判断しながら自分のチームの特徴に応じた作戦を試すことが楽しい運動である。

※ ゴール型ゲームの技能目標を以下にまとめた。



5 研究主題に迫るために

中学年分科会の研究主題は「基本的な動きを身に付け、最後まで運動に取り組む子」としている。「最後まで運動に取り組む」ということを考えた時に、「運動が楽しい」と感じれば最後まで取り組もうとする力が育つと考えた。また、「運動が楽しい」と感じれば、「進んで運動に取り組む」ようになるのではないかと考えた。

そこで、基本になってくるのが「基本の技能を身に付けること＝その運動の楽しさを味わえる」ということではないだろうか。ハンドボールの基本となる技能の「パス」「シュート」「フリーでボールをもらう」この3つの動きを楽しくチームで学習することで運動が苦手な児童の苦手意識をなくしていくことができると考えられる。また、繰り返し練習を行うことで技能向上を図り、お互いに良い言葉掛けの機会を増やせると考える。この3つの動きの練習の中でお互いに声を掛け合っていくことを重点に置きたいと考える。

(1) 研究主題に迫るための手立て

【手立て①】場や道具の工夫

ボール

- ・ 児童にとってあたってあまり痛くない、つかみやすいボールを使用する。

コート

- ・ 縦30m、横15mのコート・半径4mのゴールエリア・高さ2m、幅3mのゴールを使用し、走ることとボールを操作することをたくさん楽しめるコートとする。

【手立て②】ルールの工夫 易しいゲーム

- ・ ボールに触れる機会を増やし、基本的な動きを身に付けられるようにキーパーを含めた5対5のローテーション制を導入する。ローテーションでは、極力プレーを止めないように、自身のチームの攻撃が終わった時点で適宜ポジションやメンバーの交代をする。チームは男女混合の5～6人の計6チームとし、運動能力に偏りが生じないようにすることを配慮し、意図的に教師側で編成する。
- ・ 誰でも積極的にシュートを打ち、競い合えるように以下の工夫を取り入れる。
 - (ア) ゴールの隅に1本ずつのコーンを置き、コーンに当たれば2点とする。(通常ゴールは1点)
 - (イ) ゲーム中に全員がシュートを打てたとき、試合後にボーナス得点として3点加点する。
シュートは外れても構わない。シュートをした児童は、帽子を白→赤にする。
- ・ 各種の反則があるが、プレーに差し障りないレベルであれば反則を取らない。(特に3歩まで歩けるとしているが、4歩程度なら取らない)
 - ⇒タグラグビーのようにボールを抱えて走る続けること。ダブルドリブル、相手選手への危険なプレーのみを反則とする。

【手立て③】基本的な動きを身に付けるための練習方法の工夫

チーム練習の工夫

(ア) パス練習

投げる基本…片手でボールを投げることを、同じ方の手と足が出ないように投げることを基本とする。

受ける基本…ボールを怖がらず、正確にボールをキャッチできることを基本とする。

- ・ ラン&パス…両サイドにわかれて3m程度のキャッチボールをし、相手にボールを投げたら反対の列の後ろに並ぶ練習。素早いパス回しができるようになる。
- ・ サークルハンド…フラフープに走りこんでパスをもらう練習。走りながらキャッチする練習ができ、投げる方も走りこんでくる位置を考えて投げられるようになる。
- ・ 4対2(1)…四角を作り、真ん中に鬼をおいてボールとりゲームをする。投げる方は素早くフリーの味方を見つけて正確に投げる練習になる。受ける方は正確にキャッチしないととられてしまうので、実践に近い練習となる。また、適宜動いてボールをもらうことで、ボールを持たないときの動きを身に付けることができる。

(イ) シュート練習・ゾーンディフェンス練習

シュートの基本…片手でオーバースローまたはサイドスローでのシュート进行すること。

(ランニングシュートやジャンプシュートも能力に応じて扱う。)

ゾーンディフェンスの基本…ゴールエリアに沿ってディフェンスし、相手のシュートコースをなくしていくこと。

- ・ 2対1…2チーム合同練習で行うとより実践に近い練習を行うことができる。攻撃側は数的有利な状況であり、ボールを持っていない人がどのように動けばいいか、アドバイスを通して実践していくことができる。また、誰でもシュートを積極的に行える方法である。ディフェンス側はボールを持っている人への素早いマークを意識することができる。
- ・ ランニングシュート…ボールを受けてから3歩以内で助走をつけシュートを行う。初めのうちには声掛けなどでリズムをとってシュートのタイミングを図る。この練習をすることでより威力のあるシュートを打つことができる。
- ・ ライン抜けゲーム…2チーム合同で行うと競い合えて楽しめる。ゾーンディフェンスの基本の動き方を身に付けることができる。ディフェンスは、ゴールエリアに入られないように相手チームをけん制する。チームで協力してゾーンを組まないと抜けられてしまう。また、攻撃側は、ディフェンダーにタッチされずにゴールエリアに入れば良い。マークを外し、シュートを狙うチャンスを自然に覚えることができる。

【手立て④】学習方法の資料の工夫

- ・ 「パス」「シュート」の基本を培うことができる練習方法の提示し、チームカードや個人カードに掲示する。
- ・ チームカード…ゲームでの作戦を簡単に提示し、チームの作戦を考えやすくした。また、振り返りにはチームでがんばれたことを記入していく。

【手立て⑤】作戦を立てるための工夫

- ・ 作戦を提示し、自分のチームに合うものを重点的にゲームで行えるよう声掛けする。
- ・ 基本的な作戦としては攻撃を主とし、ディフェンスは基本的にゾーンとする。
- ・ 攻撃の作戦例

いかに早く攻撃を行えるかがゲームでのポイントである。そのためにいくつかの攻撃方法を提示した。この中からチームに合う作戦を選択し、実行していく。

ロングパス作戦…リスタート後、キーパーなどが一気に前線に長いパスを出し、相手ゴールに迫る速攻作戦。

パスパス作戦…細かいパスを素早くつないで相手ゴールに迫る方法。ゾーンディフェンスのすきをついて、フリーになった味方がシュートを打ちやすい作戦。

サイド攻撃作戦…ディフェンスや味方が真ん中に固まってしまった時、両サイドを使うと、一気にシュートチャンスが生まれる作戦。

	学び方・チームの力を知る段階		楽しむ段階
時	1	2・3・4・5	6・7・8（本時）・9・10
学 習 活 動	1 学習のねらいや進め方を知り、単元全体の見通しをもつ。 ・ 運動の進め方 ・ 資料や学習カードの使い方 ・ 安全の約束 2 用具の準備 3 準備運動 4 試しのゲーム （キーパーを含め 5 対 5） 5 整理運動 6 学習の振り返り 7 片付け	1 学習の準備をする。 2 本時の学習内容、めあてを確認する。 3 準備運動 4 チーム練習・チームの作戦確認 「パス」 ・ 4 対 2 ・ サークルパス 「シュート」 ・ ランニングシュート 「ディフェンス」 ・ ゾーン 5 ゲーム ・ キーパーを含め 5 対 5 ・ 時間制（1 ゲーム 4 分、前後半制） ・ エンドラインを出る。ゴール後→キーパーが投げる。 ・ ボールをもって 4 歩以上歩く、反則（プッシングなど）→その場に素早くボールを置き再開。 ・ 反則なしのボールの取り合いはじゃんけん。 ・ キーパーやフィールドプレイヤーの交代は自チームの攻撃終了後に入れ替わる。 6 整理運動 7 学習の振り返り 8 片付け	1 学習の準備をする。 2 本時の学習内容、めあてを確認する。 3 準備運動 4 チーム練習・チームの作戦確認 5 チームの時間に取り組む（パス練習、2 対 1） 6 ゲーム（6・7・8 時→ルール固定 9・10→工夫する） ・ ゲーム 1（4 分） ・ 先生のアドバイス（2 分） ・ チームの作戦の確認（2 分） ・ ゲーム 2（4 分） ・ チームの作戦の確認（2 分） ・ ゲーム 3（4 分） 7 整理運動 8 学習の振り返り 9 片付け
指 導 上 の 留 意 点	○ チームの力を高めるために学習資料を活用し、記録カードを書かせたり、チーム内で良さを認めていくことを確認させたりする。 ○ チームに合った作戦について確認する。 ○ 準備運動やミニゲームがゲームにつながるよう、活動のねらいを理解させる。 ○ 学習のまとめでは、ミニゲームなどでねらった動きができた児童を称賛する。		○ ボールをもっていないときの動き方を指導する。 ○ チーム内の声掛けが良いチームを称賛し、全体に広める。 ○ ボール操作に不安がある児童には個人的に助言をする。 ○ ゲームのルールを守って安全に行うよう指導する。
評 価	○ チームや他チームの友達とかかわり、励まし合って練習やゲームをしたり、ゲームの勝敗の結果を受け入れたりして、楽しんでゲームを行うことができる。（態度） ○ 仲間と役割を分担し、安全に配慮して用具の準備・片付けを進んで行おうとする。（態度） ○ ゲームの行い方を知り、チームで簡単な作戦を立てたりすることができる。（思考・判断） ○ 投げる、受けるといったボール操作をしたり、素早く移動したりして、ゲームができる。（技能）		○ チームの作戦や状況に応じて、投げる、受けるといったボール操作をしたり、ボールを受けることができる場所に素早く移動したりしてゲームができる。（技能） ○ ゲームの勝敗を受け入れ、礼儀正しい態度でゲームを行うことができる。（態度） ○ チームの特徴に応じた簡単な作戦を立てて練習やゲームに取り組むことができる。（思考・判断）

7 本時の展開（本時 8 / 10）

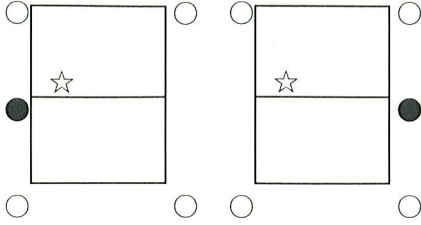
（1）ねらい

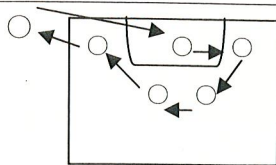
【技能】 ボールを素早くつないで積極的にシュートを打つことができる。

【態度】 友達の良いところを声掛けしたり励まし合ったりしながら楽しく練習やゲームをすることができる。

【思考・判断】 チームに合った作戦を考え、試合に臨むことができる。

（2）展開

学習活動	指導上の留意点（・） 評価□
1 集合・整列・挨拶をする。	ゲーム中の身体接触は避けることと、体調がすぐれない場合はゲームから抜けることを指導しておく。
2 本時の学習内容を確認する。	- チームカードでチームの作戦を確認する。また、自分のめあても確認する。 - 声掛けを行うことを意識させる。
チームの作戦をもとに、声を掛けあって、楽しんでゲームに取り組もう。	
3 準備運動する。	各部位をよく動かして主運動への準備をさせる。
4 チームの時間に取り組む。（チームで選択） 「パス」…「ラン＆パス」・「サークルハンド」 「4対2（1）」 「シュート・ディフェンス」（2チーム合同練習） …「2対1」	本時までに各チームの作戦やめあてを確認しておくようにする。
5 ゲームを行う。（合計3ゲーム）	《ルール》 - ローテーションは自分のチームの攻撃が終わった後に行う。 - ディフェンスをしてラインを割った場合は、ディフェンス側のスローインとする。 - ゴールした時に、コーンに当たって入った場合は2点。 - 試合後に全員シュートしていたら3点のボーナス得点。
 ○…ボール拾い ☆…主審 ●…得点・記録 ローテーション方法（6人チームの場合）	【思】 チームの作戦をもとに練習を選択し、取り組んでいる。 - 声掛けを行いながら練習に取り組んでいるチームを称賛し、声掛けへの意識を高める。 - 素早く場所を移動してゲームを楽しむよう個に応じて助言する。 【態】 友達の良いところを声掛けしたり励まし合ったりしながら全力でゲームに取り組んでいる。 - ゲーム中も声掛けの良いチームをほめていく。 【技】 正確なパスやキャッチができています。 【技】 積極的にシュートを打つことができています。 - 先生のアドバイスでは特にボールをもたないときの動きや素早い攻撃の展開方法について説明し、次のゲームにつながるようにする。



- ①ゲーム1 (4分) ②先生のアドバイス (2分)
- ③チームで話し合い・コートチェンジ (2分)
- ④ゲーム2 (4分)
- ⑤チームで話し合い・コートチェンジ (2分)
- ⑥ゲーム3 (4分)

6 整理運動を行う。

7 学習を振り返る

8 挨拶・用具の片付けをする。

- ・ 運動で使った体の部位をほぐすことを意識させる。
- ・ チームで作戦を振り返り、良かったことを話し合って、カードに書き発表させる。